

提出要望書⑩

2013年2月22日

山口 香様（同文にて辻口信良弁護士、岡村英祐弁護士あてに郵送）

国際婦人年連絡会

世話人 橋本 葉子
實生 律子
山口みつ子

15人の女子柔道選手の声明文を支持します —悪しき伝統を変える出発点として—

国際婦人年連絡会は、全国的に組織された37の女性NGOで構成され、1975年の国際婦人年世界会議で採択された行動目標「平等・開発・平和」をテーマに男女平等参画社会の実現を目指して活動してまいりました。

この度、柔道女子日本代表の指導者による暴力・パワーハラスメントに関してJOCに告発した15人の女子選手の勇気ある行動に心からの敬意を表します。15人による声明文には、告発に至るまでのさまざまな恐怖や苦悩と共に、それでも未来の女子柔道のために立ち上がらなければならなかった心情が誠意を込めて吐露されています。

大先輩であり、元世界王者山口 香さんという素晴らしい相談相手、岡村英祐弁護士、辻口信良弁護士というよき理解者に恵まれたとはいえ、長く受け継がれてきた「威圧と服従」による指導が染みついた日本のスポーツ界で、自立した人間として臆せず意見を言うことは決死の思いであったことと察されます。今回のことは男女差別の根強い意識と慣習による表れであり、選手の悩みや意見を吸い上げるシステムづくりが大きな課題であったことを示しています。これを機に日本のスポーツ界の悪しき伝統が変わる出発点となることを願います。そのためには日本柔道連盟理事の中に女性を迎え入れることは必至です。政府は2020年までに意思決定機関への女性の登用を30%にまで高めるとしています。

また、JOC理事の一人は、今回のことに関して「訴えるということは責任を伴うものであり、告発15選手の匿名は大きな問題である」と発言しています。実名を公表しても選手の立場が保障されると確信できる状況にない中でのこの発言は、問題解決を目指したものではなく、本質を摩り替えるものに他なりません。私たちは皆様の主張を強く支持すると共に、全日本柔道連盟が組織のあり方や体質改善など一日も早く刷新されることを願います。